

平成24年8月の解説（府県天気予報）

【8月の天候状況】

上旬は、本州付近を太平洋高気圧が覆い、北海道と沖縄・奄美を除き晴れた日が多くなり、中頃までは気温が平年を上回り猛暑日となった所も多くなりました。一方、気温の上昇により大気の状態が不安定となり所々で局地的な大雨や雷雨となった日もありました。また、1日と2日は台風第10号の影響で西日本を中心に曇りや雨の所がありました。北海道は前線や低気圧の影響で曇りや雨の日が多くなりました。沖縄・奄美では、台風第9号や台風第11号の影響で曇りや雨の日が多くなりました。

中旬は、太平洋高気圧は日本の東海上で強く、日本付近に張り出したため、全国的に晴れの日が多く気温が高くなり、特に旬の中頃は猛暑日となった所が多くなりました。一方、上空に寒気が入り、太平洋高気圧の縁を回って南から暖かく湿った空気が流れ込みやすかったため、大気の状態が不安定となって西日本を中心に大雨や雷雨となった所がありました。

下旬は、太平洋高気圧の北への張り出しが強く、北日本から東日本にかけて晴れの日が多くなりましたが、西日本の太平洋側では、南からの暖かく湿った気流の影響を受け、曇りや雨の日が多くなりました。沖縄・奄美では、台風第14号や台風第15号の影響で、曇りや雨の日が多くなりました。

月平均気温は、北日本から西日本では高く、北・東日本では平年値を1以上、上回りましたが、沖縄・奄美では低くなりました。月降水量は、沖縄・奄美でかなり多くなりましたが、北日本太平洋側ではかなり少なく、東日本では少なくなりました。北日本日本海側、西日本では平年並でした。月間日照時間は、東日本ではかなり多く、北日本で多くなりました。沖縄・奄美ではかなり少なく、西日本では平年並でした。

【8月の検証結果】

17時発表の天気予報による「降水の有無」の全国平均の適中率は、明日予報は81%で例年値^(注)より2ポイント高く、明後日予報は例年値より3ポイント高い77%でした。各地方の適中率では、明日予報は北日本と近畿地方で例年値より5~6ポイント高く、関東甲信地方では9ポイント高くなりましたが、沖縄地方で例年値より5ポイント低く、九州南部地方では9ポイント低くなりました。明後日予報は北日本と関東甲信地方で例年値より7~8ポイント高く、中国地方では5ポイント高くなりましたが、九州南部では8ポイント低くなりました。

明日の最高気温の予報誤差は、例年値より小さい地方が多く、東北地方、東日本及び中国地方では例年値より0.5~0.6小さくなりました。全国平均は例年値より0.4小さい1.3でした。最低気温の予報誤差も、沖縄地方では例年値と同じとなりましたが、その他の地方では例年値より小さく、関東甲信地方では例年値より0.4小さくなりました。全国平均は例年値より0.2小さい1.0でした。

^(注) 例年値は気象庁HP（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【10月の天気予報の利用にあたって】

秋になると日本付近を低気圧と高気圧が交互に通過するようになります。低気圧が通過するときには曇りや雨となり、高気圧に覆われると晴れとなって、天気は数日の周期で変わるようになります。低気圧の通過後は北よりの冷たい風が吹いて気温が下がり、その後、次第に高気圧に覆われ晴れると気温が上がるため寒暖の変動が大きい時期もあります。

また、低気圧が急激に発達しながら日本付近を通過し、大雨や強風など大荒れの天気となることもあります。天気予報により大雨や強風などが予想される場合は、最新の気象情報や警報、注意報などに十分留意して下さい。